



古代文学における表現生成に関する研究



国際文化学部
日本文学学科
講師

森 あかね

研究シーズの紹介

本研究は古代の日本文学（特に平安期の物語）を対象として、表現のあり方について探求しています。文学は先行作品を取り入れながら、新たな表現を生みだし、またそれが後の時代の作品へと繋がっていきます。この連関に着目し、『源氏物語』等の作品について研究しています。

また、現代における日本文学の継承を課題として、古典とものづくりを組み合わせた教育実践と分析にも取り組んでいます。新たな古典教育のあり方を探究し、教育現場での負担軽減のための教材の開発、公開、共有を目指します。



文学表現の継承

- 日本文学の多様な表現の繋がりについて知ることが可能です。
- 現代の古典教育へと繋げ、新たな教育方法や教材の共有を行います。



古典×ものづくり教育
高校生向けの視覚教材を作成。
(ゼミナールにて実践)



高専古典教育研究会編『結ひの古典』
(あるむ、2024※共著)
文学表現の繋がりを意識した教科書を作成。

期待される活用シーン

- 文学と現代社会の繋がり、古典の活用方法について知りたい。



『源氏物語』等、様々な日本文学表現の享受例を紹介し、新たな活用へ繋げる。



- 教育現場で自由に使用できる、古典教材が欲しい。



古典×ものづくり授業実践例や作成した教材（ブックレットや映像）の提供。



※作成教材より

その他の研究テーマ

・平安期物語における継子譚表現に関する研究